



朝一小だよい

活気があふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

TEL048-461-0052 <http://www.asakadai1shou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和7年12月1日

児童数 614名



太陽の周りを何回まわりましたか

校長 金子二郎

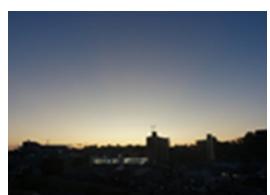
日の暮れるのが驚くほど早くなり、本格的な冬が間近であることを思わせる寒さが既に訪れているようです。日中でも冬物を羽織らなければならないような気温の日が増えてまいりました。長かった猛暑の夏を終え、本格的な紅葉の秋を楽しめたと思っていたのも束の間、2025年新語流行語大賞にノミネートされた「二季」を実感させられております。二十四節気で言えばまもなく大雪。インフルエンザの流行も心配です。保護者や地域の皆様におかれましても、くれぐれもお体にお気を付けてください。



さて、このところクマの出没がニュースとなり、地方によっては都市部でも確認され人身被害も報告されています。被害が甚大なのは、餌となるブナの実の記録的な凶作との関連であるとも聞きます。さらに凶作の原因が今年の夏の記録的な猛暑にあると聞けば、気候変動が人的被害に影響しているとも考えられ、地球温暖化が他人事ではないとも思われます。もちろん市内でクマを見かけることはありませんが、幸いなことに豊かな自然は毎日の生活の中でも身近に感じることはできます。移ろいゆく夕暮れのグラデーションや済んだ夜空にきらめく星を楽しめ、また日々厳しさが増す寒さに陽の光の有難みを実感することもできます。国立天文台天文データセンターの野田祥代さんは著書「夜、寝る前に読みたい宇宙の話」の中で次のように述べています。「第3惑星である地球は、太陽のエネルギーがほどよく届くところでコマ



のように自転しながら、太陽側を向く昼と反対側の夜とをつくっています。私たちは地球の表面にひつつくように暮らしていて、その昼と夜の世界を命の続くかぎり通り抜けます。今日あなたを照らす太陽は、あなたのおじいちゃんやおばあちゃんを照らしていた太陽と同じ太陽です。ゆるぎない法則で世界中を等しく照らしながら、太陽は明日も、来年も、10年後も、あなたや私がいなくなり、若者やその孫の世代もいなくなる遠い未来の世界でも、変わらず地上を照らしているでしょう。そうして、いつの日か太陽が輝くのをやめるか、地球が自転をやめるその瞬間まで、地上の昼と夜は続いていきます。地球の上でどんなことが起きた日も、必ず昇っては沈んでいく太陽。そのことが大きな勇気をくれることもあるれば、切ない気持ちにさせることもあるでしょう。でも、その一回転こそが、あなたをせいいっぱい生きる今日という日です。人がきらめく朝日に手を合わせ、赤く沈む夕日に勇気づけられるのは、私たちは本当はそれで十分なのだということを、心のどこかで知っているからかもしれません。」レイチェルカーソンの名著「センス・オブ・ワンダー」が教えてくれる通り、当たり前の日常に健やかに暮らしている子供たちが、いつかは必ずそのかけがえのない自然の素晴らしさに気付いてくれるに違いありません。



寒さにふるえた者ほど太陽の暖かさを感じる。人生の悩みをくぐった者ほど生命の尊さを知る。(ホイットマン)